

殺虫剤

第18406号

コロマイト® 乳剤

種類名：ミルベメクチン乳剤

- 特長**
- 微生物から生まれた殺ダニ剤で、有機栽培でも使えます。
 - 減農薬栽培では農薬としてカウントされません。(一部の県を除く)
 - 速効性に優れ、ダニの卵→成虫まで効果があります。

【有効成分】 ミルベメクチン……………1.0%

【その他PRTR該当成分】 1,2,4-トリメチルベンゼン (PRTR法1種) ……8.0%

1,3,5-トリメチルベンゼン (PRTR法1種) ……2.2%

ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル (PRTR法1種) ……1.8%

【性状】 淡黄色澄明可乳化油状液体 【毒性】 普通物※ 【危険物】 2石-Ⅲ

【有効年限・包装】 5年・30mL×10×4

※普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。



コロマイトは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

商品規格		
規格	30ml	入数 10×4
希望小売価格・税抜(税込価格)		
900円(990円)		
サイズ幅×高さ×奥行 (mm)		重量
個装	41×101×41	90g
中箱	210×101×90	960g
外箱	380×120×230	3.9kg
ITFコード		
14987081748218		
JANコード		
4987081748211		

適用病害虫・使用方法

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチン
りんご		ハダニ類 キンモンホソガ リンゴサビダニ ユキヤナギアブラムシ	1000倍	200~700 L/10a (200~700 mL/m ²)	収穫前日 まで	1回		1回
もも ネクタリン 小粒核果類 いちじく		ハダニ類 モモサビダニ			収穫7日前 まで			
なし		ハダニ類 ニセナシサビダニ	1000~ 1500倍	100~150 L/10a (100~150 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
おうとう パパイヤ		ハダニ類	1000倍		収穫7日前 まで			
あすき		ハダニ類	1000~ 2000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫14日前 まで	2回以内		2回以内
だいず いんげんまめ 豆類(未成熟)		ハダニ類	1500倍		収穫7日前 まで 収穫前日 まで			
いちご(親株床)		ハダニ類	1000~ 1500倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	仮植前まで	2回以内		2回以内
なす		ハダニ類 ハモグリバエ類 コナジラミ類 チャノホコリダニ	1500倍		収穫前日 まで			
トマト ミニトマト		ハダニ類 ハモグリバエ類 トマトサビダニ コナジラミ類	1000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	1回		1回
ピーマン		ハダニ類 コナジラミ類			2000倍			
ししとう 甘長とうがらし		コナジラミ類	1000~ 1500倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
きゅうり		ハダニ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	1500倍		収穫3日前 まで 収穫前日 まで 収穫7日前 まで			
きゅうり(花) きゅうり(葉)		ハダニ類 コナジラミ類	1500倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内		2回以内
食用へちま		ハダニ類	1000倍		収穫前日 まで 収穫7日前 まで			
すいか		ハダニ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	2000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
メロン		ハダニ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	2000倍		収穫前日 まで			
しそ科葉菜類 (えごま(葉)、 しそを除く)		ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内		1回
えごま(葉)		サビダニ チャノホコリダニ ハダニ類	1000倍		収穫前日 まで			
しそ		ハダニ類	1500倍	300L/10a (300mL/m ²)	収穫前日 まで	1回		1回
しそ(花穂)		ハダニ類	2000倍		収穫前日 まで			
モロヘイヤ		ハダニ類	1500倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内		2回以内
エンサイ		ハダニ類	2000倍		収穫前日 まで			
ふだんそう		ハダニ類	1500倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内		2回以内
アスパラガス		ハダニ類	1000倍		収穫前日 まで			
さんしょう(葉) ななてん(葉)		ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内		2回以内
せんぶり		シクラメンホコリダニ	1000倍		収穫7日前 まで			
せり科葉菜類 (みつば、 コリアンダー(葉)、 セルリー、せり (水耕栽培を除く)		ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内		2回以内
みつば		ハダニ類	2000倍		収穫3日前 まで ただし、 伏せ込み 栽培は 伏せ込み前 まで			
コリアンダー(葉)		ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	1回		1回
セルリー		ハダニ類	2000倍		収穫前日 まで 収穫3日前 まで			
せり (水耕栽培)	ガラス室 等の施設	ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
かんしょ さといも さといも(葉柄) はすいも(葉柄)		ハダニ類	1000倍		収穫前日 まで			
やまのいも やまのいも(むかご)		ハダニ類	100~500 L/10a (100~500 mL/m ²)	100~400 L/10a (100~400 mL/m ²)	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
みょうが(花穂)		ハダニ類	1000倍		収穫前日 まで			
みょうが(莖葉)		ハダニ類	1000倍	100~400 L/10a (100~400 mL/m ²)	みょうが (花穂)の 収穫前日 まで 但し、花穂 を収穫 しない場合 にあっては 開花期終了 まで	2回以内	散布	2回以内
食用金魚草 食用なでしこ しょくようほおすき 食用ミニバラ		ハダニ類	2000倍		収穫前日 まで			
食用プリムラ 食用カーネーション 食用エキザカム 食用せんいちこう 食用トレンシア 食用パンジー		ハダニ類	2000倍	100~300 L/10a (100~300 mL/m ²)	収穫前日 まで	1回		1回
さく(葉)		ハダニ類	1500倍		収穫前日 まで			
さく		ハダニ類	1500倍	100~200 L/10a (100~200 mL/m ²)	収穫前日 まで	2回以内		2回以内
宿根かすみそう		ハダニ類	1000~ 1500倍		収穫前日 まで			

■については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意

- (1)ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布すること。
- (2)本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させるおそれがあるので、できるだけ年1回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用する。
- (3)ハモグリバエ防除に使用する場合、老齢幼虫に対する効果が劣る場合があるので発生初期に時期を失せず、散布すること。
- (4)高温、乾燥時の散布は葉害のおそれがあるのでさけること。
- (5)展着剤によっては葉害を生ずるおそれがあるので、展着剤混用の際は事前にその適否を確認してから使用すること。
- (6)りんごに使用する場合は、混用散布すると新しょう基部及び果す部小葉が黄化する場合がありますので注意すること。
- (7)なしに使用する場合は、葉害のおそれがあるので6月以前には使用しないこと。
- (8)洋なし(ル・レクチェ)に使用する場合は、葉害のおそれがあるので袋かけ後に散布すること。
- (9)なすに使用する場合は、効果を落さず葉害をさけるために、炎天下をさけるべく夕方に散布すること。
- (10)なすの水なす及び加茂なす(大芹川種)には葉害のおそれがあるので、使用しないこと。
- (11)いちごに使用する場合は、親株床以外では葉害を生ずるおそれがあるので、親株床以外では使用しないこと。
- (12)施設栽培いちじくでは果実や葉に葉害を生じるおそれがあるので、散布した薬液が乾きにくい条件での散布をさけること。特に梅雨時など、日照が少なく果実が着色しにくい時期の使用をさけること。なお、使用に際しては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (13)せり(水耕栽培)に使用する場合は、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (14)蚕に長期間毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。
- (15)ミツバチに對して軽度の影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱に直接かからないようにすること。
 - ②関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (16)散布量は対象物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (17)本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- (18)適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1)誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2)本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し眼科医の手当を受けること。
- (3)原液は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時には手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4)散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

使用残りの薬剤が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光の当たらない低温な場所に密栓して保管すること。